

# 家族と地域のちからを神戸の未来へ

## 神戸市会議員

市民の声、  
家庭の声を  
市政に

住み続けたい  
まちづくり

# 平木 ひろみ



Think globally  
Act locally

## 若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち

### 世界に誇れる夢のあるまちを!

神戸市も人口減少という課題に直面しています。若い世代が安心して結婚・出産できるよう、子育て・教育環境の充実が必要です。神戸市には大学が集積しているにも関わらず、卒業後に神戸市から転出してしまう傾向があります。神戸経済が活性化し、新しい雇用が生まれれば、神戸で就職し、家庭を築いていくことにつながるはず。『住み慣れた地域で暮らし続けたい』市民の皆様と、『神戸で住みたい、働きたい、訪れたい』皆様とともに世界に誇れる夢のあるまちを作りましょう。



### 「家庭と地域のちからを神戸の未来へ」

次世代の神戸を担う子供たちは、安全・安心な子育てのしやすいまちで、心豊かに育ててほしいものです。子育て世帯の経済的負担の軽減や、一人ひとりの習熟度に応じた、よりきめ細やかな学習指導の充実などは、『若者に選ばれるまち』という観点からも重要です。また、子供たちを見守り育ててくださっている地域力は、『誰もが活躍するまち』の表れです。『家庭と地域のちからを神戸の未来へ』つないでいけるよう、これからも神戸の未来のために働きます。



### 「BE KOBE」

ポスト震災20年の神戸のまちづくりにあたっては、復興に尽力し、支え合い、前を向いて生きている人たちが神戸を作っているという市民の想いが凝縮された「BE KOBE」というロゴマークが使われています。『神戸の魅力は、山より、海より、人でした!』というキャッチフレーズは私たちの誇りです。

『都市山』六甲山の活性化を目指し、開港150年記念を迎える神戸港の賑わいを創出します。いずれも『人』が一番大切であることを忘れず、『人を中心にしたまちづくり』を進めます。



### ITを活用したスタートアップの集積と成長支援

神戸創成戦略の柱の一つとして『安定した雇用を創出する』ことがうたわれ、スタートアップオフィスが完成し、起業・創業支援施策として、スタートアップ(成長型起業家)を支援する場が作られました。選ばれた起業家は、短期重点支援プログラムによって、専門家などのアドバイスを受けながらビジネスプランを練り上げます。神戸が今後どのように他都市との差別化を図り、国内外の起業家から活動拠点として選ばれるまちとしてこの事業を展開していくのか、神戸で出資者とマッチングし、事業を起こして神戸経済の活性化や市内での新たな雇用創出につなげるのか、が大切な課題です。



### 「やさしい日本語」の利用推進

災害時の外国人への情報伝達について『やさしい日本語』での表現を推奨する動きが報じられています。『避難』は『逃げる』、『警戒する』は『とても気を付ける』など、災害情報に使われる言葉だけではなく、日常生活の中でも『停車します』は『止まります』など表現の工夫ができます。定住外国人が災害情報を理解できれば、外国人観光客を助けてくれることにもつながります。『やさしい日本語』で表現することができれば、外国人にも理解してもらいやすくなります。

神戸市として、外国人市民と共生する地域社会を目指し、国語辞典や英英辞典の役割を市民が意識するという市民の意識啓発を含め、推進していくことが大切です。



### 実現した 平木ひろみの提案

- 水上警察署のポートアイランドへの移転
- 市章山など山麓電飾のLED電球使用による省エネ化
- 地下鉄海岸線で流れる「鉄人28号」の歌
- シティループのバス停名をわかりやすく変更
- 国際人材を育成するための継続した研修
- 小学校英語教育における地域人材確保と育成
- デザインを統一したわかりやすい案内板
- ポートライナーの混雑緩和対策

民主こうべ政策議員団

# 平木 ひろみ

編集・発行 / 民主こうべ政策議員団

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

TEL 078-322-5844 FAX 078-322-6161

<http://www.hirakihiromi.com>

facebook



## フランス視察を踏まえての提言書

久元市長に対して12月13日に提出

平成27年11月2日(月)より6日(金)まで、5日間をかけてパリ、リヨン、マルセイユの3都市の視察調査を行いました。すでに視察報告書を提出したところではありますが、全体を通しての切り口も含めて、政策につなげやすいよう、提言書としてまとめることにしました。

来年に控えるマルセイユ市との姉妹都市55周年や、これまで北野・山本地区が10年をかけて育んできたモンマルトル地区との交流、さらには、市長自らトップセールスを行っていただいたリヨン、ローヌ・アルプ州との連携など、目の前に具体的な果実が実ろうとしていたり、蒔かれた種子が水を待っていたりと、それぞれに異なる状況とは言えますが、私たちの目線で直接見聞きをし、相手先と会話を交わしてきた結果が、今のこの機会にそれぞれの成長につながるきっかけになることを期待します。



神戸の北野坂とモンマルトルの丘の友好関係を表したイラスト

視察1日目に訪問したユネスコ本部で、創造都市ネットワークの一員として、神戸からの発信力も大いに求められていることを痛感しました。創造都市には何が求められているのかを思いを馳せ、改めてユネスコ憲章の目的を考えると、明治の開港以来、多数の外国人を受け入れ、外国人や外国文化と共に発展してきた神戸市には、多文化・多宗教共生のまちとして多大な可能性が秘められていると再認識するに至りました。多文化・多宗教が共生かつ融合しながら時代を作り、さらには一緒に震災を乗り越えてきた、他のまちには無い特別な強さもこのまちにはあるはず。もう一度、つなげられてきた文化やコミュニティを再認識して、教育やまちづくりに活かしていくことが、未来の市民やまちを創造し、シビックプライドも醸成していくことにもつなげられると確信し、提言内容に盛り込みました。



## 「BE KOBE」神戸は人の中にある。



### 1 都心再開発に対する提言

- ① 都心ウォーターフロント…船に乗る人も船を見る人も呼び込んでいく
- ② 環境共生のまちづくり…都心に自然を呼び込もう
- ③ 歴史のある建物の有効活用…古い建物の「時間」を活かす
- ④ 街の魅力アップの仕掛けづくり…デザイン都市の本領発揮

### 2 マルセイユとの海洋友好都市としての提言

- ⑧ クルーズ船の集客…瀬戸内海と地中海は似ている
- ⑨ 海洋技術・港湾技術に着目した交流…神戸は海の技術で発展してきた
- ⑩ 「マルセイユ」をネーミングした空間づくり…神戸の中に「マルセイユ」が誕生
- ⑪ マルセイユ総領事公邸での神戸フェア…マルセイユの中に「神戸」が誕生
- ⑫ マルセイユ・神戸ビジネス交流の拡大…これからは「友好」以上の交流を

### 3 多文化共生と国際理解に対する提言

- ⑤ ユネスコスクールの取り組み…神戸で育つ子、国際人に
- ⑥ 国際政策の体制強化…ビジネス、交流すべてを包括する
- ⑦ 神戸市内の外国人社会・文化・学校…多文化共生をすべてに活かす

### 4 医療産業の連携に対する提言

- ⑬ リヨン・ピオポールと神戸医療産業都市の連携  
…市長努力のチャンスを逃さずに

### 5 環境技術クラスター創成に対する提言

- ⑭ 神戸市内の環境技術を有する企業のクラスター  
…COP21は「パリ協定」でスタート、フランスも力を入れてくる

### 6 兵庫県パリ事務所を拠点とした観光・ビジネス交流

- ⑰ 人的交流の拡大…国際的な人材育成にトライ
- ⑱ モンマルトルの丘／北野・山本地区交流をベースにした発展  
…10年間で更に今後の10年間に繋げていく

## 多文化共生社会の推進



本会議場にて

多くの国では、自国に住む外国人に対する言語習得支援プログラムを用意しています。多様性を認め合い、日本で安定した生活を営むためには日本語の習得が欠かせません。まず生活に最低限必要な「生活日本語」を習得し、勉強などに必要な「学習日本語」までつなぐ必要があります。外国にルーツをもつ子供たちに対し

ての来日後すぐの支援による「生活日本語」習得の推進は必要不可欠ですが、義務教育であるにも関わらず、公立小中学校での支援は十分とは言えません。そのため、子供たちが「学習日本語」の習得まで至らないために、入試という壁に阻まれて高校進学をあきらめざるをえなかったり、せっかく入学できて中退してしまうことも多く、就職も難しい状況があります。

神戸市として「生活日本語」から「学習日本語」習得にまでつなげるプログラムを体系立てて整え、学ぶ機会を均等に提供し、子供の成長を通して、家族皆がよき神戸市民として地に足のついた生活ができることにつながる必要があると思います。

## 神戸市外国語大学のあり方

神戸市外国語大学は来年度創立70周年を迎える全国で唯一の公立外国語大学であり、東京外国語大学と並んで、日本で2つしかない国公立の外国語大学です。世界的にも実力を評価されている教授陣がそろい、学生のレベルは高く、就職率は98%を超えます。



今後「選ばれる大学」であるためには、高い学習意欲を持つ学生であれば、年齢や立場に関係なく誰もが学ぶことができるという多様性を認める体制づくりに取り組むべきです。

神戸市外大の特色である、働きながら学ぶが社会人、勤労学生にも仕事や育児をしながら学ぶ機会を広く提供してきた2部の設置や、留学生の受け入れも含め、「学びたい人に学ぶ機会や教育環境を等しく提供している」と自信をもって言えるよう、体制を早急に整えることは急務です。広報戦略、渉外能力を磨いて経営戦略を立てていかなければ、これからの大学運営は成り立ちません。「魅力ある選ばれる大学」として積極的に世界に向けてアピールしていきたいものです。